

【ご挨拶】 地球温暖化が加速する中で、このたびアメリカ大統領となったトランプは、温室ガス削減を謳うWWFのパリ協定から離脱することを表明しました。南極の氷が溶けて、海面が上昇して太平洋の小島が水没し、海水の温度が高い状態が続き、世界のいたる場所で気候変動が起きているのに、自国のことしか考えない傲慢な人物を大統領にまつりあげたアメリカという国、影響力が大きいだけに、ますます未来が不安になってきます。いざ日本、夏の猛暑とうって変わって、この冬は寒波が長く居座り、北陸から東北、北海道の日本海側は記録的な大雪です。久斗山はまだ昔に比べれば少ない方ですが、雪が降る夜は憂鬱で眠れません。

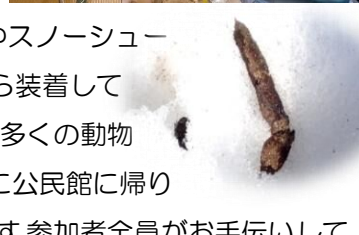
【冬晴れ、瀬戸内の夕焼け！】 冬になると同じ兵庫県でありながら北部と南部とでは天気が大きく違うので、ちょっと不公平を感じます。2月半ば、一泊二日の日程で神戸・南あわじ市への研修旅行に行ってきました。朝、雪の舞う自宅を出て南下、この日は丹波市までは雪が降っていましたが、神戸に来ると風は冷たいけど晴れていました。夕方、南あわじ市の旅館の窓から、瀬戸内の海と美しい夕焼けが見れました。遠く四国が望まれ、冬にこんな美しい景色が見れて羨ましく思いました。



日本海側は連日の雪、でも瀬戸内側は晴れて美しい夕焼けが見れた（令和7年2月11日）

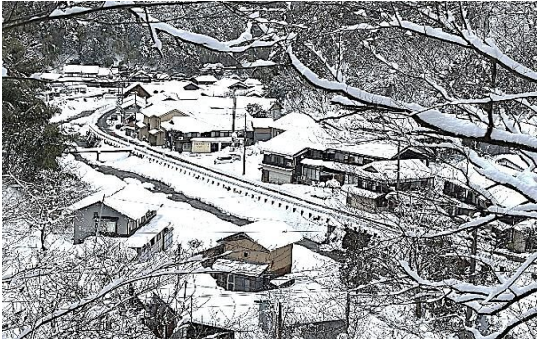
【かんじき着けて雪上の足跡観察】

寒波も収まった週末の16日、久斗山地区公民館の今月の自然教室「野生動物の足跡さがしと雪上ハイク」を開催しました。豊岡や岩美町からの参加もあり、スタッフを含めると40人近くになりました。9時に受付、和室で開会、その後、スライド写真を見てもらいながら「野生動物と狩猟」についてお話しをしました。野外観察に出かける前に、体育館に用意したかんじきやスノーシューの説明を聞き、各々が自分に合ったかんじきなどを手に持ち、外に出てから装着して雪の上を歩いてみました。いざ、雪上ハイクに出発です。子鹿の死骸があり、多くの動物の足跡が集まっていました。キツネの糞なども観察できました。11時ごろに公民館に帰りお昼の準備にとりかかりました。メニューはシカ肉の味噌カツ丼と猪汁です。参加者全員がお手伝いして美味しく出来上がりました。キャベツやカツをご飯に載せ味噌だれをかけて、猪汁と一緒にいただきました。天候にも恵まれ、久斗山の冬をめいっぱい楽しんでもらえました。



【立春過ぎて最強寒波襲来】

近年、暖冬で雪が少ない冬が続いていましたが、今年の冬将軍は久しぶりに気合いが入っているようです。1月初めに積った雪は節分の頃はかなり少なくなりましたが、今月、立春過ぎた4日頃から再び雪が降りだして、一晩で20cm～30cm積る日が週末まで続きました。おかげで、一時1mからの積雪となり、久斗山の村はすっぽりと雪に包まれました。この寒波も月の中頃には弱まりましたが、再び最強寒波襲来です。そろそろ雪は願い下げですが…



【久斗山中山間組合、次期に向けて始動】

全国的に高齢化が進み、深刻な後継者不足による農地の維持管理が限界にきている山間地に、国は助成金を出すからなんとか頑張れと言ってきました。周囲を山に囲まれた久斗山も、わずかな農地の維持に悲鳴をあげつつ、これまでなんとか頑張ってきました。1月24日、久斗山中山間組合の臨時総会が開催され、5年を一期とする第5期の期限が令和6年度末に来るにあたり、はたして次の第6期へ継続するのか、が大きな議題になりました。町役場の担当者の説明を聞き、議論を重ね、6期継続が決議されました。泣いても笑っても、あと5年。頑張るしかない。



【雪の野山を楽しむ！】

1月25日、「ブツバ -wunderbar-」さんが久斗山を訪れ「地球温暖化を感じるスノーシュー体験」を開催しました。鳥取や浜坂から参加したみなさんの所では雪はすっかり消えてしまいましたが、久斗山にはまだあります。スノーシューを装着して歩き、雪上ハイクを楽しみました。



【寒波、野生動物にも厳しい】

大雪になると、ノウサギやキツネは元々積雪地域に生息しているので生きてゆけます。でもシカやイノシシは体や足の形から、雪の中では十分な行動ができず、餌も満足に摂れないことから、餓死するものが多くなります。特に秋に生まれた子鹿は、冬が越せません。今年の冬は厳しく雪が多いので、これで少しはシカが減ってくれるといいのですが…



○令和7年 3月の行事

- 8日(土) 「シカと自然を考える集い」 (10:00～15:45 但馬・みらいと環境づくり協議会)
- 9日(日) 「上山高原自然研修会 モニタリング報告会」 (13:30～16:00 上山高原エコミュージアム)
- 20日(木) 久斗山自然教室「早春の里山、早起き生き物を探せ！」 (9:00～12:00 久斗山地区公民館)
- 21日(金) 新温泉町内小学校 卒業式
- 23日(日) 久斗山区 令和7年初総会 (9:00～ 久斗山区)



うわのふれあいの森倶楽部例会&公開講座 別冊-1

「春を待つ山の生き物を探そう」

～まだまだ雪が残る兎の野の野山をスノーシューで歩きながら、厳しい冬を耐えた生き物たちの春を待ちわびる姿を観察します～

日時 令和7年3月8日(土) 13時～15時半(予定) 小雨決行

講師 山本 一幸 氏 (西但馬の自然を考える会 代表)

定員 30名(申し込み順に受付、定員になり次第締め切ります)

参加費 600円(レクリエーション保険代等) スノーシュー貸出料(貸出料:送料)

集合場所 木の殿堂 受付前(現地集合・解散)

準備物 山歩きのできる服装(防寒具、手袋、帽子等)おやつ、飲み物
雨具、必要なら ルーペ、図鑑、着替え(濡れた時用)等

申込方法 電話で木の殿堂にお問い合わせの上、お申し込みください。

留意事項 ・当日13時時点で善美町を含む地域に気象警報が出ている場合は中止になる場合があります。
主催者として、ケガや病気等の必要処置は行いますが、それ以上の責任は負いかねます。
なお、参加者は、レクリエーション保険に加入します。

うわのふれあいの森倶楽部とは
兎の野高原野外教育センター(木の殿堂)の自然を利用し、様々な活動を通じて兎の野高原を再発見していきこうという倶楽部です。
ふれあいの森倶楽部は参加者を随時募集しております。

兵庫県 木の殿堂
兵庫県美方郡善美町村岡区和池95-1
TEL 0796-96-1368 メール kinodendo@gmail.com
FAX 0796-96-1390 ホームページ URL : www.kinodendo.jp

ホンドテン
運悪く、後ろの両足がぐくり罌にかかってしまった。罌をはずすと一目散に逃げていった。

四季の久斗山生物だより
ホンドテン (哺乳類)

冬のテン(貂)は顔から頭は白く、体は黄色い毛並みで美しい。でも夏は顔が黒くて、不細工。体は細長く、行動は俊敏、木登りもうまく、雑食性。主に夜行性だが、昼間でも見かけます。山里では民家に入りこむこともあり、目のつく場所に糞をするので害獣扱いされます。

かかってに昔話 雪女郎 第四話 作、いっこう

山小屋の戸を叩くと、中の方で人が動く気配がします。留守ではなさそうです。しばらくすると、引き戸が開き、髪を後ろに束ねた若い娘が立っていました。

すみません。私は麓の村の平六という者です。狩りに出て山中で道に迷い、雪の中を彷徨ううちにこの山小屋にたどり着きました。どうか雪がやんで天気が落ち着くまで、休ませてもらえませんか。

平六は、頭を下げて必死でお願いしていました。最初、娘は驚いた顔をしましたが、にこりと微笑むと小屋の中に迎え入れてくれました。娘に促されるまま、平六は入ってすぐの土間で濡れた蓑やわらじを脱ぎ、一段高くなった座敷に上がり、赤々と燃える囲炉裏のそばに座ると、囲炉裏にかかった鉄瓶から注がれた熱い熊笹の茶を勧められ、一口飲むと、冷えた体は内から温もってききました。やっと落ち着いた平六は娘を観察する余裕が出てきました。娘の頃は二十歳ぐらいか。小柄ながら、そこそこ均整のとれた女体つき、着ている物こそ田舎者ですが、うつつむき気味の顔を良く見ると瓜実顔で、睫の長い目は涼やかで鼻筋が通り、淡桃色をしたおちよぼ口、作りは均整がとれはっとするほどの美形です。奥の小屋に一人です。いぶかしき思い、娘に問うと、私はこのあたりを統治する藩の山番の娘です。両親は冬になる前に二つ山を隔りました。地のある前に二つ山を隔りました。私は春まで一人で、この小屋の番をします。そう、娘は言いました。外の吹雪は収まる様子ありません(つづく)